2021.9
No.181

所報ふくしま 窓

福島県教育センター

「窓」に寄せる思い
～教育に寄せる心を開く小さな「窓」～
小さな「窓」から広がる教育の世界が見えてきます。

「すべてを糧として」

所長　佐藤　秀美

昨年度に引き続き，当センターにおいては，新型コロナウイルス感染拡大に対応した方法で研修を継続しております。すべての研修を宿泊を伴わない通所での実施とし，オンラインによる外部講師の講義や,オンデマンド型の動画配信による講義の実施等,研修時間が制約される中で最大限の研修効果を上げることができるよう,様々な工夫を凝らしています。このコロナ禍において，社会の働き方も大きな変化を余儀なくされていますが，この状況下で思いがけず生まれたものが，今後社会のスタンダードに変わっていくケースも多々あることでしょう。来年度以降コロナ禍が収束した後の当センターの研修の在り方も，少子化により各学校の教員数が減少し，一人一人の負担感が増す一方で教職員の多忙化解消が叫ばれる中，より教職員の皆さんが受講しやすく研修効果が上がるものとなるよう，様々な可能性を模索して参ります。

また，今年度は，小学校に引き続き中学校において新学習指導要領が全面実施され，来年度には高等学校の新学習指導要領が年次進行で始まります。さらに本県においては，第７次福島県総合教育計画の策定が進められ，そこでは「学びの変革」が謳われています。従来の一方通行の画一的な授業から，個別最適化された学び，協働的な学び，探究的な学びへと変革することにより，多様性を力に変え，福島県に誇りを持つことができる教育の実現が求められています。その手段として，地域課題そのものをテーマとした探究学習の導入や，一人一台端末を活用したプログラミング教育や県内外との交流等の導入が提唱されています。

当センターにおいても，各学校における GIGA スクール構想に伴う一人一台端末への対応を支援するため，専門研修やカリキュラムセンター事業による指導主事の各学校への派遣の他，今年度からチーム研究のテーマとして「教育の情報化の推進に向けた１人１台端末活用の在り方」を設定しました。すべての教職員が校務や授業において ICT を有効に活用し，児童生徒の個別最適化された学びや探究的な学びが実現できるよう，研究協力校における実践を積み重ねております。さらに高等学校において課題となっている，大学入学共通テストに導入が予定されている「情報」（特にプログラミング）に関する指導についての研修会や，教科横断的な学習活動の核となる総合的な探究（学習）の時間に関する研修会も急遽開催することとしており，今後も柔軟な姿勢で学校が抱える今日的な課題の解決に貢献して参ります。

ところで，今年最大のトピックスといえば言うまでも無く東京オリンピック・パラリンピックの開催でした。開催には賛否両論ありましたが，本県ゆかりの選手たちの活躍や，本県において開催されたソフトボール・野球の活躍に勇気づけられたのも事実です。いささか意味合いが薄れた「復興五輪」についても，新聞紙上で開沼博氏が「復興五輪をいかに記憶していくのかという選択の余地はまだ私たちの手中にある。（中略）　シニカルに嘆いてばかりいても何も生まれない。復興五輪の歴史はこれからはじまる。」と指摘するように，すべては我々のこれから次第です。震災後，苦しみを克服する中で生まれたものを「福島らしさ」として位置づけ，「福島ならでは」の教育を標榜する本県には，マイナスをプラスに変える逞しさが備わっています。当センターにおいても，新型コロナによる混乱も，国論を二分するオリンピック・パラリンピックの開催も，すべてをよりよい本県教育の実現に寄与するため，今後の研修を再構築する糧としていきたいと考えております。

本誌に関するご意見・ご感想，並びに研修に関するご質問等がございましたら，下記連絡先までお寄せください。

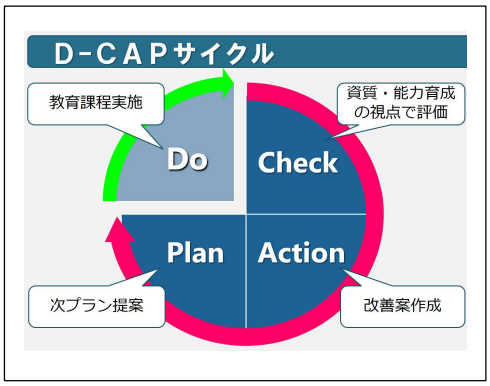
編集発行：　福島県教育センター　〒960－0101　福島市瀬上町字五月田16番地
TEL　024－553－3141（代表）　FAX　024－554－1588
URL　https://center.fcs.ed.jp/　E-mail　center@fcs.ed.jp

小・中学校における カリキュラム・マネジメント推進に関する研究

－研究協力校におけるカリキュラム・マネジメントの支援（第二年次）－

「カリキュラム・マネジメント」の実現に向けて ～『資質・能力の育成』につながるD-ＣＡＰサイクル～

カリキュラム・マネジメントとは，簡潔に言えば，「学校の教育目標を実現するため，教育課程を編成（P）・実施（D）・評価（C）・改善（A）する営み」のことです。このＰＤＣＡサイクルを回すことによって，教育活動の質の向上を図っていくことがねらいです。



しかし，通常のＰＤＣＡサイクルでは，教育活動の反省が学期末や年度末にまとめて行われることが多く，せっかくの気付きが反省に生かしきれないという課題がありました。D-ＣＡＰサイクルでは，教育活動実施後の，評価，改善，計画を，（ＣＡＰ）というひとまとまりとしてとらえ，一気に行うことにより，マネジメントサイクルがより効率的・効果的に機能するようにしました。

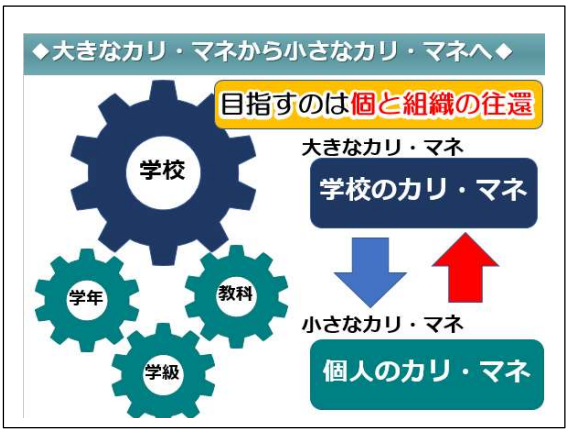
本年度の研究内容

昨年度は，カリキュラム・マネジメント推進の新たな方法として，研究協力校（伊達市立堰本小学校，伊達市立梁川中学校）に「D-ＣＡＰサイクル」を提案しました。その取組の成果として，学校組織全体でカリキュラム・マネジメントに取り組むことができたり，教職員一人一人が資質・能力の育成に目を向けるようになったりすることができました。

二年次になる本年度は，昨年度の成果を基に，教職員の視点をより強く生かしたカリキュラム・マネジメント推進方法の提案及び支援を進めていきます。

１ 実践に基づくカリキュラム・マネジメント推進方法の提案と支援 ～「大きなカリ・マネ」から「小さなカリ・マネ」へ～

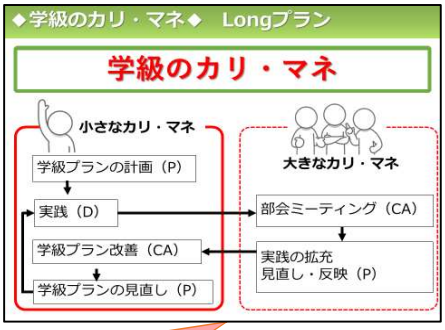
昨年度取り組んできたカリキュラム・マネジメントは，言わば学校全体で取り組む「大きなカリ・マネ」でした。カリ・マネを全教職員で進めていくためには，教職員一人一人が学校の重点目標を踏まえた上で，学級経営や教科指導でそれを確実に実現していくことが大切です。そこで，「学級」や「教科」といった個人で取り組む「小さなカリ・マネ」が必要であると考え，協力校に提案しました。本年度は，個人と組織を往還するD-ＣＡＰサイクルを目指して進めていきます。



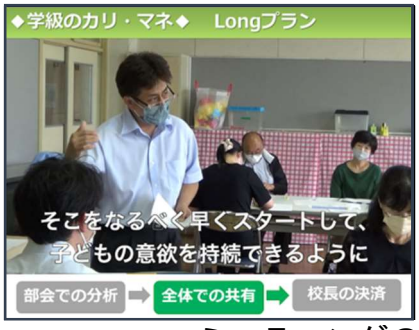
２ 研究協力校での取組

（１）学級のカリ・マネ【堰本小学校】

学校経営・運営ビジョンの重点項目から，学級で取り組む内容を「学級プラン」として設定し，実践しています。その取組について，ミーティングで評価・改善を行い（ＣＡ），学級プランを見直します（Ｐ）。また，教育効果の高い実践については，全体で共有し広めるようにしています。



個と組織を往還する
Ｄ−ＣＡＰサイクル

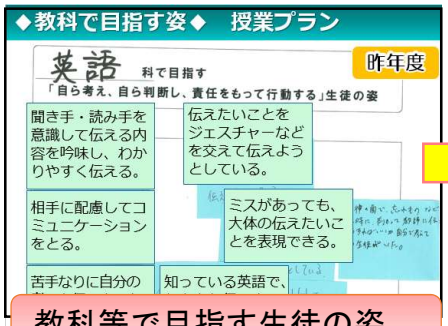


ミーティングの様子【堰本小学校】

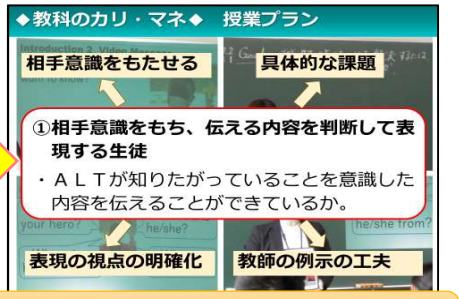
決済までを一気に行うことで，より質の高い教育活動に向けてすぐに動き出すことができます。

（２）教科のカリ・マネ【梁川中学校】

昨年度，教育目標の重点項目から，各教科等で目指す生徒の姿を設定しました。それを受けて，本年度は，教師個人が目指す生徒の姿をより具体化して授業実践を行い，Ｄ−ＣＡＰによって授業改善につなげています。



教科等で目指す生徒の姿



教師個人で目指す生徒の姿

先生方の意識が大きく変わってきています。

（３）昨年度からの継続した取組

協力校では，校種や学校の実態にあった方法で，Ｄ−ＣＡＰサイクルを回し，教育活動の質の向上を図ってきました。その中で，学校行事のＤ−ＣＡＰ（堰本小学校での Short プラン，梁川中学校での行事プラン）は，本年度も継続して取り組んでいます。それにより，堰本小学校では，Ｄ−ＣＡＰ後の決済までが１つのサイクルとして機能しており，改革のスピード化が図られてきています。また，梁川中学校では，生徒たちが自ら考え，判断する場面を意図的に設定して行事に取り組んでおり，生徒たちの手によって学校文化を創り上げようとしています。

校種に応じたＤ−ＣＡＰシステム

今後は…

協力校における２年間の取組を基に，カリキュラム・マネジメント推進のためのリーフレットを作成し，県内に発信していきます。

教員研修チームからの発信

資料から問いをつくる授業

中学校社会科の研修会より

中学校社会科の先生方の話を聞くと「学習内容が多い中学校では，どうしても生徒に自ら問いをもたせて課題解決していく形の授業になりにくい」という話が出ます。そこで，教科書に載っている２枚の絵から生徒に問いをもたせる授業について話題にしました。

１　学習指導要領から考えられる，この授業のねらい

日清・日露戦争，条約改正などを基に，立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに，我が国の国際的な地位が向上したことを理解させる。

【授業の中で取り上げたい事象】

・日清戦争に至る動き　・戦争の概要　・国内外の対応　・下関条約の内容

・戦後のアジアの国際関係や国内情勢

２　本時のねらいと生徒から出された言葉をつないで問いをつくる

「CHINE」は中国のことだから，中国の国土を分けているということかもしれません。

この時代に日本と中国が戦争をしたと学習しました。

ロシア人は，日本人と中国人の様子を見ている感じです。

他の人たちは，どこの国の人かこの絵だけでは分かりません。

日清戦争はどのようにして起こり，日本や清にどのような影響を与えたのだろう？

生徒の言葉と本時のねらいをつないでできた問い

３　生徒が切実感のある問いをもつことができれば・・・

どうしても知りたい，調べてみようという意欲が高まる（主体的な学び）

自分の考えをもったり，新しいことが分かったりしたら，伝えたくなる（対話的な学び）

自分の学びと他者の学びとを比較したり，合わせたりすることで学びが深まる（深い学び）

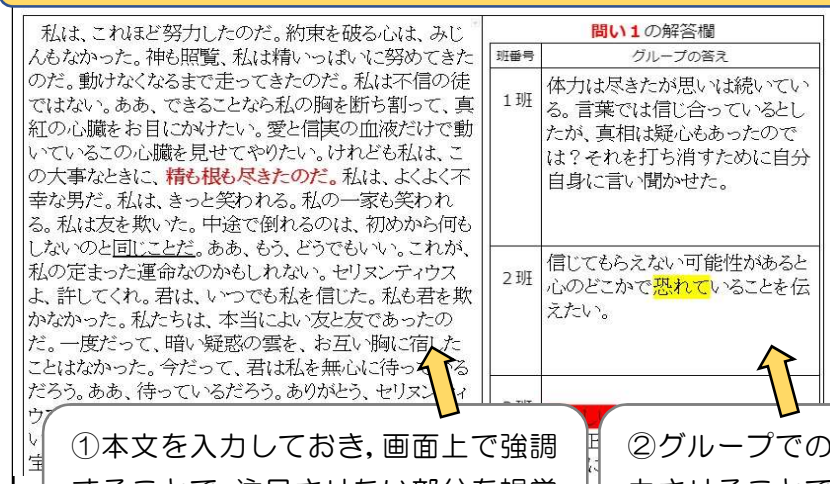
生徒にとって，「知りたい」「調べてみたい」という問いをもたせることが，主体的・対話的で深い学びにつながります。教科書や資料集など，普段使っている教材を上手に使って，生徒が自ら問いをもつことができるような授業の積み重ねが大切です。

教員研修チームからの発信

授業におけるＩＣＴ活用の手立てを研究しています

一人一台端末活用の時代を迎え，各教科でＩＣＴの活用について研究会を持ちました。
ここでは，国語と理科の例をご紹介します。

①国語の小説読解に Google ドキュメントを利用する　《注目点の明示と共有》



私は、これほど努力したのだ。約束を破る心は、みじんもなかった。神も照覧、私は精いっぱいに努めてきたのだ。動けなくなるまで走ってきたのだ。私は不信の徒ではない。ああ、できることなら私の胸を断ち割って、真紅の心臓をお目にかけたい。愛と信実の血液だけで動いているこの心臓を見せてやりたい。けれども私は、この大事なときに、精も根も尽きたのだ。私は、よくよく不幸な男だ。私は、きっと笑われる。私の一家も笑われる。私は友を欺いた。中途で倒れるのは、初めから何もしないのと同じことだ。ああ、もう、どうでもいい。これが、私の定まった運命なのかもしれない。セリヌンティウスよ、許してくれ。君は、いつでも私を信じた。私も君を欺かなかった。私たちは、本当によい友と友であったのだ。一度だって、暗い疑惑の雲を、お互い胸に宿したことはなかった。今だって、君は私を無心に待っているだろう。ああ、待っているだろう。ありがとう、セリヌンティウ

問い１の解答欄

班番号	グループの答え
１班	体力は尽きたが思いは続いている。言葉では信じ合っているとしたが、真相は疑心もあったのでは？それを打ち消すために自分自身に言い聞かせた。
２班	信じてもらえない可能性があると心のどこかで恐れていることを伝えたい。

本文に対する
みんなの意見を，
スムーズに共有
したいなぁ。

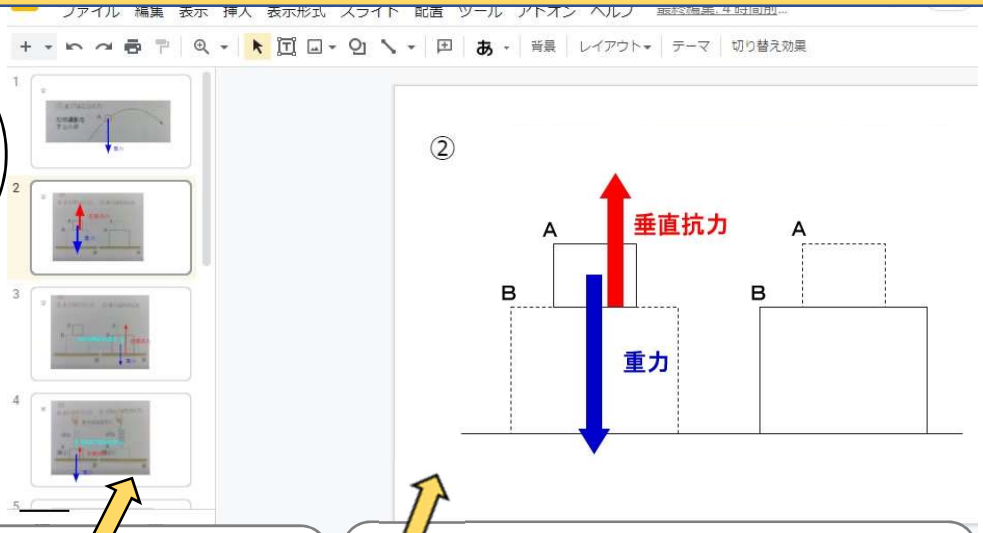
①本文を入力しておき，画面上で強調することで，注目させたい部分を視覚で伝えることが可能です。

②グループでの話し合いの結果を入力させることで，教室全体で意見共有を図ることが可能です。

Google ドキュメントはワープロソフトです。ここでは本文を画面上に準備しておき，問いとその答えの集約，また意見提示を画面上で行っています。

②物理の問題演習に Google スライドを利用する　《答えの集約と一覧》

プリントを解いた
後，すぐに共有
できれば学びが
深まるなぁ。



①答えをカメラで撮影して各スライドにアップロードします。教員も児童生徒も，端末ですぐに共有することが可能です。

②１つの答えをとりあげるほか，全ての画像を一覧する画面にも切り替えられるので，教室全体で答えを検討することも可能です。

Google スライドはプレゼンテーションソフトです。ここでは，人数分のスライドをあらかじめ作成しておき，Google ドライブ上で一人一人の答えを集約・共有しています。

長期研究員の研究紹介

当センターには14名の長期研究員がおり，学校教育の今日的課題について理論的，実践的な教育研究を行っています。年度末には研究の成果を発信しますので，県内の先生方の実践にぜひ活用していただきたいと考えています。今回は，その研究内容を紹介します。

国語科

研究主題　（R3・R4）

「確かな読みの力」を育てる国語科授業の在り方　～児童の「問い」でデザインする単元構想の工夫を通して～

星　克明（天栄村立牧本小学校）

児童自ら問いをつくり，精選，解決したり，問いのよしあしを振り返り，作品のよさと関連付けたりする問いの探究活動を通して，「確かな読みの力」の育成を目指しています。

国語科

研究主題　（R3・R4）

読むこと領域における内容を的確に捉える力の育成　～文章と図表などを結び付けて読む活動を通して～

神野　杏樹（会津若松市立河東学園）

図表と本文の関係性を捉えるという読みの手法を基に，筆者が意図した構成や表現の工夫などについて考えることを通して，文章を的確に捉える力の育成を目指しています。

国語科

研究主題　（R3）

文学的な文章の読解において，自分の考えを再構成する力の育成　～ワールド・カフェの手法を用いた活動を通して～

日出山　亜希子（福島県立会津工業高等学校）

根拠を基にした自分なりの考えを，ワールド・カフェの活動を通して吟味・検討し，再構成することによって，自分にとっての最適解を導き出す授業を目指しています。

社会科

研究主題　（R3・R4）

社会的事象と自分の関わり方を選択・判断する力を育てる社会科授業づくり　～地域素材を活用した単元構想の工夫を通して～

菅野　聡（白河市立白河第二小学校）

児童と地域素材，特に地域の人材との関わりを繰り返し単元に位置付けることを通して，社会的事象と自分の関わり方を選択・判断する力を育てる授業を目指します。

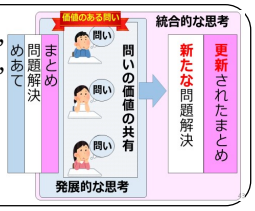
算数科

研究主題　（R2・R3）

統合的・発展的に考える力を育む算数科授業づくり　～考えのよさに気付かせる学習過程を通して～

野地　吾勝（二本松市立大平小学校）

問いの価値を可視化したり，まとめを更新したりするなど，子どもが自ら考えのよさに気付く学習過程を通して，統合的・発展的に考える力の育成を目指します。



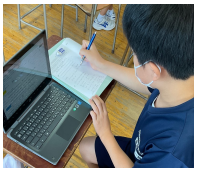
数学科

研究主題　（R3・R4）

解決までの道筋を構想し数学的に表現する力を育む学習指導の在り方　～「学習ストックシート」の活用を通して～

髙橋　駿介（須賀川市立西袋中学校）

授業の中で働かせた数学的な見方・考え方を共有し，それらを記録・蓄積していく活動を通して，問題解決までの道筋を構想し数学的に表現する力の育成を目指しています。



紹介した長期研究員による各研究の詳しい内容につきましては，「令和３年度研究紀要第51集」を御覧ください。当センターのWebサイトから御覧いただくことができます。

https://center.fcs.ed.jp/

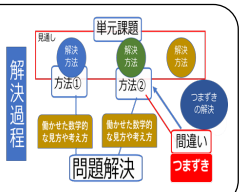
数学科

研究主題 （R3）

考えを修正しながら問題解決に向かう生徒を育成する高等学校数学科の授業　～「思考マップ」を活用した解決過程の可視化を通して～

春山　正樹（福島県立安積黎明高等学校）

問題解決過程やそこで働かせた数学的な見方・考え方を可視化する「思考マップ」を活用し，未知の問題に対し，問題解決に向かう生徒を育成することを目指します。



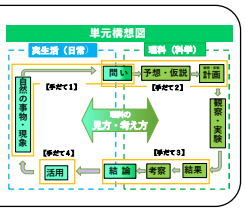
理　科

研究主題 （R3・R4）

目的意識をもって問題を解決する力を養う小学校理科授業づくり　～実生活との結びつきを意識した単元構想を通して～

布施　純平（南会津町立南郷小学校）

学習で得た性質や規則性などを実生活と結び付け，自然の事物・現象を捉え直すことで、目的意識をもって問題を解決する力の育成を目指します。



理　科

研究主題 （R3）

思考力を発揮しながら概念を形成する高等学校生物の授業づくり　～生物や生物現象を日常生活と関連付ける活動を通して～

橘　圭子（福島県立小高産業技術高等学校）

知識を覚える受動的な学びではなく，生物や生物現象について生徒自身が考え理解しようとする学びを通して，日常生活の中で生きて働く知識を獲得する授業作りを目指します。

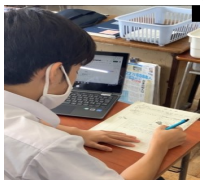
英語科

研究主題 （R2・R3）

物事を多面的にとらえ，まとまりのある英文を書く力を育成する学習指導の在り方　～考えを広げ，整理し，記述を推敲する授業づくりを通して～

齋藤　崇（会津若松市立第五中学校）

多面的な視点から題材をとらえることで考えを広げ，生徒が自ら選択した学習方法で記述を推敲する活動を通して，まとまりのある英文を書く力の育成を目指しています。



英語科

研究主題 （R3）

やり取りにおける流暢さを向上させるスピーキング指導の工夫　～ディベートで用いられる手法を使った言語活動を通して～

太田　由香里（福島県立会津学鳳高等学校）

統合的な言語活動であるディベートをペアで行い，英語で即興のやり取りをすることを通じて，すらすらと自分の考えを話す力がつく授業を目指しています。

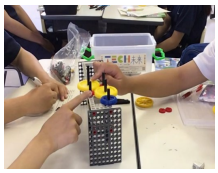
技術科

研究主題 （R3・R4）

論理的思考力を育む技術科学習指導の在り方　～プログラミング的思考を活用した段階的な学習を通して～

酒井　友昭（田村市立大越中学校）

生活や社会の中から技術科に関わる課題を見い出し，プログラミング的思考を活用した課題解決を通して，論理的思考力の育成を目指しています。



教育相談

研究主題 （R3・R4）

自他のよさを認め合い，自己存在感を味わうことができる集団づくり　～自分の役割における「すてきな行動」の自覚を通して～

阿部　真奈生（小野町立小野小学校）

児童一人一人の「できている行動」に焦点を当て，互いに認め合う活動を学級活動や日常生活で取り組むことにより，自己存在感を味わうことができる集団づくりを目指しています。

教育相談

研究主題 （R3）

よりよい人間関係を構築できる生徒の育成を目指した指導の在り方　～ＳＮＳ利用の在り方における相互尊重の促進を通して～

長根　奈緒美（福島県立福島北高等学校）

ＳＮＳ利用時の経験を生徒相互で振り返り共有することや，「自分も相手も大切にする」表現方法を考えることを通して，よりよい人間関係を構築できる生徒の育成を目指しています。

※　学校名は，研究協力校です。

令和３年度福島県教育研究発表会(オンライン開催)

～　明日の　福島の　教育をつくる　～

　県内公立学校教員の優れた教育実践･研究及び当センターの研究･研修業務の成果の発表と意見交換等を行い,本県学校教育の向上に資することをねらいとして教育研究発表会を実施しています。

　今年度は，学習指導，教育相談，情報教育等についての実践・研究発表と講演会を，オンラインで開催します。実践・研究発表は，県内学校・園および当センターによる計20件の発表を予定しています。また講演会は,東京学芸大学准教授　犬塚美輪氏を講師に招き,『論理的な読み書きの育成』のテーマでご講演いただきます。

　県内の幼稚園等・小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校・大学等の教職員の方々が対象です。多数の方の参加をお待ちしています。

期　　日　令和３年１１月２５日（木）
９：５０～１６：２０
参加申込　参加申込方法等詳細については１０月初旬までにＷｅｂサイト等でお知らせします。

カリキュラムセンターによる先生方や学校の支援について

　カリキュラムセンターは，日常の教育活動でお困りのことについて，県内の公立学校の先生方や学校から相談を受け，様々な支援を行う教育センターの窓口です。

　当センターでは，カリキュラム全般にかかわる相談を受け付けております。第１棟２階にカリキュラムセンター相談室を設置しております。また教職員の研修を対象とし，県内の公立学校等に当センターの指導主事を派遣する出前講座も行っています。詳しくは当センターＷｅｂサイトの「出前講座・聴講講座・カリキュラムセンター案内」のページをご覧ください。

　なお，新型コロナウイルス感染症対策のため，当センターと学校等の往来が難しくなっておりますが，カリキュラム全般にかかわる相談や出前講座等，オンラインによる対応が可能な場合もあります。お気軽にお問い合わせください。

教育センターＷｅｂサイトの御案内

　新型コロナウイルス感染症対策のため，当センターは研修の日程及び内容の変更を行っており，それらをＷｅｂサイトでお知らせしています。なお変更のあった研修講座の要項も，新着情報及び各研修講座要項ページに随時掲載していきます。研修者の皆様は御確認ください。

　新型コロナウイルス感染症対策の協力依頼も掲載しておりますので，当センター御利用の際は御一読ください。また，来所当日の朝は健康チェックを行い，当センターＷｅｂサイトからダウンロードした健康チェックシートに記入の上，受付時に提出してください。

　福島県教育センター　ＵＲＬ：　https://center.fcs.ed.jp/

教育センター
Ｗｅｂサイト